

水環境豊かな国—クロアチア

Edouard Tripkovic Katayama Croatian National Tourist Board Tokyo Office - Director
 クロアチア政府観光局 日本代表 エドワード トゥリプコヴィッチ 片山

クロアチア共和国に関して今年は二つ大切なイベントがあります。日本・クロアチア国交樹立20周年と7月1日にEUに加盟した事を祝う年です。

クロアチア共和国の基本情報

5万6,594平方キロメートル（約四国と九州を合わせた面積）の陸地と3万1,067平方キロメートルのアドリア海があります。人口が428万人で主に宗教はカトリック。首都はザグレブで人口が80万人。クロアチア人はスラブ民族で、言語はクロアチア語（スラブ系の言葉）。

クロアチアの観光情報

ユネスコ世界遺産：	7
ユネスコ無形文化財：	13
国立公園：	8
自然公園：	11
歴史：	ローマ帝国、イリュリア帝国、ビザンチン帝国、ヴェネツィア共和国、クロアチア王国、オスマン帝国、ハブスブルグ帝国、ユーゴスラビア
年間外国人旅行者：	1千万人
年間日本人旅行者：	15万5千人（2012年）

アドリア海

クロアチア側のアドリア海は島々が1244個あり、その中の殆どが無人島です。人が住んでいる島は25です。海水の質がとても良くて、ミネラルがたくさん含まれているため、肌関係の治療に利用されています。透明度は数十メートルと言われています。お魚の種類は578種あり、魚介類全体ですと2000種以上

存在しています。

宮崎駿監督の「紅の豚」はアドリア海が舞台になっています。アニメの中にはクロアチアの島の名前が出てきます。

クロアチアの七つのユネスコ世界遺産のうち六つが文化遺産で一つが自然遺産です。全ての文化遺産はアドリア海に面しているため、自然遺産のように海の環境の保存はとても大切です。

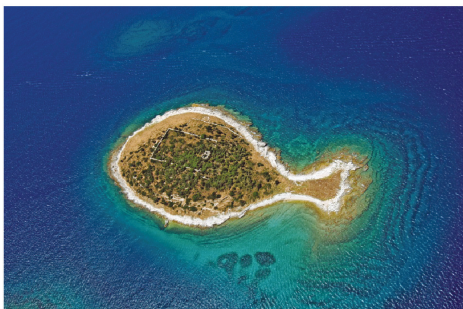
ドゥブロヴニク

「アドリア海の真珠」と呼ばれているドゥブロヴニクは何世紀も貿易都市国家として栄えていて、アドリア海では重要な役割を持っていました。当時はラグーザ共和国の名前を持ち、文化、法律、貿易要所など、さまざまな分野でヨーロッパ内で進んでいる国の1つでした。

近年はとても有名な観光地で毎年数百万の観光客が訪れます。日本人観光客がクロアチアに行く際には、是非ともお立ち寄り頂きたい美しい町です。



ドゥブロヴニク



クロアチアの島



ガレシュニャック島

スプリトゥ

ローマ帝国ディオクレティアヌス皇帝は現在のクロアチアのサラナ生まれで、295-305年故郷に一番近い海辺に宮殿を建設したことが都市の起原となっています。170×200メートルの宮殿の一面は直接海に面していました。ローマ皇帝が存命のまま引退するのはディオクレティアヌスが始めてでした。

宮殿時代から人の営みが続いていて現在も当時の建物が残っています。毎年「ディオクレティアヌスの日」というお祭りが行われ、三日間中スプリトゥ歴史地区はローマ時代に戻ります。

シベニク

聖ヤコブ大聖堂は105年間かけて、3人の建築家が三つのスタイルで建設に携わりました。：ゴシック、ゴシック-ルネッサンスとルネッサンス様式。一番の特徴は建物の全てが石で出来ている事です。



聖ヤコブ大聖堂

トゥロギール

紀元前3世紀からギリシャ人が住み始めて、現在まで生き残った町。旧市街全体がユネスコに登録されている為「町博物館」とも言えます。ヨーロッパの中でも保存状態がもっと良いロマネスク-ゴシック様式の建築が見られます。その他にはロマネスク、ルネッサンスやバロック時代の建物も存在しています。

スタリ・グラドウ平原

一番新しく登録された一番古い文化遺産です。紀元前4世紀にギリシャ人によって植民地化されて以来、2500年の間、集落の様子がそのまま残され、由緒ある文化的景観が保たれています。

当時の区画をそのまま残しながら農業栽培が続けられ、ギリシャ人の植民地の典型的な景観を良好に保っており、それが地中海内で保護状態が一番良いと評価され、世界遺産として認定されました。

六つのユネスコ世界文化遺産の中に四つは旧市街や広い地域が登録されていて、クロアチアの特徴としては「人が住んでいる世界遺産」とも言えます。

プリトウヴィツェ湖群国立公園

大自然の中のコラナ川の流れから16の湖が存在し、全てが滝で繋がっています。上流では8の湖と下流に8の湖で分かれています。一帯の地質はドラ

マイトと石灰岩のカルストからなり、特別な景観が見られます。湖群は、コケ類、藻類、バクテリアなどの光合成が関与して生まれた石灰質堆積物（石灰華）の自然のダムからできています。ダムは一年1センチ高くなります。一番高い滝は78メートルです。

公園内には1000種類以上の花があり、126種類の鳥、蝶々やその他の動物が見られます。珍しい動物としてはヨーロッパ種のヒグマやオオカミ、ワシミズク、ワイルドキャットとオオライチョウがいます。

ドゥブロヴニクとプットヴィツェは1979年に世界遺産に登録した後、危機遺産リストになった事もあります。二つとも世界遺産リストに戻すことが出来ました。



プリトウヴィツェ湖群国立公園



ドブヴィツァ入り江

四つの川の町ーカルロヴァツ

ザグレブ南西から56キロメートルにあるカルロワツ市はクパ川、コラナ川、メレジュニツァ川とドブラ川に囲まれています。オスマン帝国侵攻に対するために1579年に六つの点の星型の要塞が作られました。現在も星型を見る事が出来ます。ローマ帝国とハプスブルグ帝国の一部であって、1781年に始めて自由都市に認定されました。

19世紀末から20世紀の初めまで六角形の要塞に町の宮殿や公園を作る事が決まり、当時から現在まで、カルロヴァツはルネッサンス洋式としては最高の町です。

四つの川に囲まれて、その周辺には緑がたくさんあるため、町と自然が一つになっていて、クオリティー高い快適な町と言われています。

ヨット

クロアチアのアドリア海は地中海の一部で、殆ど波がない海なので、始めてクロアチアに来られる方の中には湖と思う人もいます。1244の島々が存在し、独特な青色「アドリア・ブルー」は絵の具の名前になる程の特徴があります。

アドリア海全体は地中海気候で日照時間が年間で2700時間以上の場所もあります。

クロアチアを旅行される方は陸路で観光するのもお勧めしますが、ヨットでアドリア海を楽しみながら、島巡りをして、世界遺産を観光するのも最適な旅行になります。

現在はマリーナが50ヶ所あり、2万船のヨットが係留出来ます。ヨーロッパや世界中のヨットの持主がクロアチアを楽しめるように、2020年までに皆さんの希望を満足できるような設備を有する環境作りを行っています。

最近ではメガ級ヨットに乗って来るセレブや政治家が増えているため、メガ級ヨットのためのマリーナも作っています。

海から見たクロアチアは陸路から見た風景と違い、大陸に近づくと、中世から生活が続いている町や、城壁で囲まれているドゥブロヴニクなどを見ますと、迫力があり、素晴らしい経験が出来ます。



海的美しさ

自然

クロアチアは大自然が多い国で、国立自然公園が19ヶ所あり、美しいアドリア海があります。その中には手付かずの自然が多いため、写真家やスケッチがお好みの方には是非お勧めします。



ムリエトウ島

コパチュキ・リトウ自然公園

クロアチア北東部、スラヴォニヤ地方にあり、流れるドナウ川の湾曲部に広がる沼沢地です。1984年に自然保護区に指定されたコパチュキ・リトウ（コパチュキ湿原）は世界的に見ても重要な沼沢地であるとして、177.7平方kmがラムサール条約の登録湿地になっています。留鳥や渡り鳥にとっての重要な営巣地となっていますが、それだけでなく魚類や水中生態系、また地質学的に見ても興味深い場所となっているとされています。ヨーロッパで鳥の種類が最も多いと言われています。



コパチュキ・リトウ自然公園

海のオルガン

もしくは「シーオルガン」は（英語：Sea organ, クロアチア語：Morske orgulje）はザダル市の建造物です。

海の波と風邪がシンフォニーを弾くような設計で、巨大な大理石の海岸の階段の下に設置されていて、観光客や地元民が美しいアドリア海を眺めながら、自然が作るメロディーを楽しみます。

この設計は世界初でクロアチア人であるニコラ・バシッチ(Nikola Ba_i_)が建築デザインした作品で、交際賞を受賞しました。2005年に設置されたものです。

ニコラ・テスラ発明家

交流電流、ラジオやラジコン（無線トランスミッター）、蛍光灯、空中放電実験や無線送電システム（世界システム）を提唱したことで知られています。発明は700以上と言われており、特に電気関係では、現在も使われている物が多いとのこと。

その中で水関係の発明もあります。一番有名なのは世界初の発電所です。ナイアガラ滝に設置され、1895年8月25日に竣工しました。三日後にヨーロッパ初の発電所がクロアチアのクルカ川（現在国立公園）のスクラディンスキ・ブク（Skradinski buk）で稼働を開始しています。

その他に世界中で使われている発明は噴水です。

どうして水はクロアチアの21世紀の一番重要な資源なのか？

クロアチアは水が最も豊かな国としてヨーロッパでアイスランドとノルウェーに続き3位、世界で30位となっています。石油やガスは現在一番大切な資源ではありますが、これらがなくても人間は生きて行けます。しかし水は絶対に必要です。

国連によりますと60億の人口の中で現在飲料水が不足している人が12億人います。2050年には最悪のシナリオの場合、人口の3分の2、70億人が飲料水の不足になる可能性があります。本当の問題は、水の消費量は人口の2倍の速度で成長しているという事実です。地球の飲料水の利用可能量のすべてが世界の人口が100億人になる前（2050予想）に不足すると言われてしています。

そう考えると、21世紀には飲料水量が過度に減る中、一番重要な資源になると予想が出来ます。石油が前世紀に政治、経済と国際関係に大きな影響を与えたように、21世紀には飲料水が取って変わる可能性が高いといえます。

そのような中、クロアチアは、十分な水資源を持っているのです。

ユネスコによって行われた水の供給に関する報告書によると、世界で水資源が豊かな国の順位でクロアチアはヨーロッパで3位、世界では30位です。年間一人当たりの再生可能な水資源は32818立方メートルです。クロアチアは将来の水資源として十分な量を有しているのです。先程説明した通り、人口が増加すると共に、飲料水の重要性が高まる中、21世紀はクロアチアにとって飲料水がもっとも重要な資源になるでしょう。水はセキュリティと地政学的な国の位置だけでなく、経済・社会の発展に影響を及ぼします。

クロアチアは、その主権、国家安全保障と経済に完全に新たな課題に直面しながら、近未来に向かっていきます。

7月1日～12月31日までクロアチアの「イベント」キャンペーンと「クチコミ」キャンペーンを実施中です。詳細はホームページをご確認ください：
<http://croatia.jp>



青い洞窟



コナヴレ地方の女性